東京日々新聞

七百四十八號

大坂高麗橋ヨリ三井と云る呉服舗の賣場と勤る宗七い平素温和の者なるゆ何の故ゆや店支配の奥村清水二名ゆ疎まれ其容らをさる呼ゆ毎ゆ朋輩ゆ等を超らゆ又番頭ゆ媚るの徒ハ皆宗七と不快色が此頃小過失ありしや西番頭の計ひゆて苛刻呵責を受しゝ役掛なも下ゆの風評を聞一向忿懣堪ゆなて店振舞の混雑と幸ひ一同酔倒を窺ゝ密ゆ取出す白刃を提挙平日ゆ不民手代の茂七が枹を足ゆて迯と蹴ゆび驚き起るを斬て捨て尚ゆ追んで奥村が肩先深く斫下つ清水ゆ数ヶ所の傷を負も此物音ゆ家内の人数手ゆ〳〵得物を携て捕んと犇〳〵中を切枝爭で本意と達せんと當の敵を尋る間遂ゆ心神疲ゆて其不及る事を知り區の屯所へ訴て自ら縛目ゆ受ゝり

中村宗七

轉々堂主人錄

一蕙齋芳幾画

人形界 貝足屋

渡辺彫栄

東京日々新聞748号　文庫10-8059-17
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library